

ふくいじょうあと 16. 福井城跡（えちぜん鉄道地点）

所在地：福井市大手2丁目

調査原因：福井駅付近連続立体交差事業

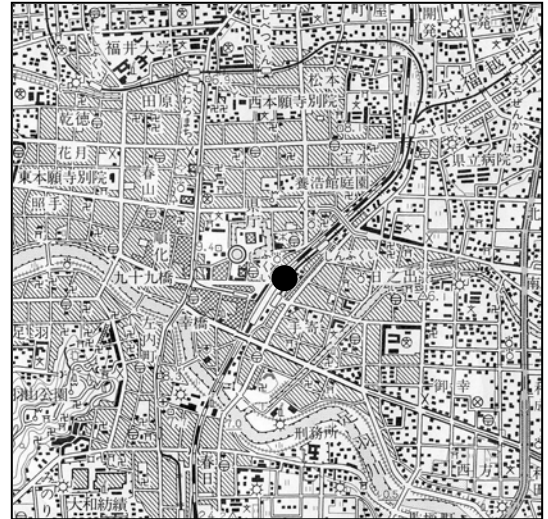
調査期間：平成25年8月1日～9月30日

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：500 m²

（調査区A：160 m²、調査区B：340 m²）

時代：江戸時代中期～幕末



位置図（S=1/50,000）

調査の概要

福井城跡は福井市の市街地中心部にある遺跡です。福井城（北庄城）は徳川家康の次男結城秀康の入封以来、幕末まで越前松平氏の居城とされ、城周辺の城下町はそのまま現在の市街地の基礎となっています。福井駅付近連続立体交差事業に伴い、遺跡の一部が破壊されることから、記録保存のための発掘調査を実施しました。今回の調査区A・Bは、東側のえちぜん鉄道仮設路線と西側の北陸新幹線用高架との狭間にあって、絵図等資料によれば、百間堀南東岸の中ノ馬場地区に相当する箇所です。

調査の結果、江戸時代中期から幕末にかけての遺構・遺物を確認しました。以下、調査区ごとに概要を記しますが、遺跡のある福井駅とその周辺は、近代以降の開発で何度となく掘削されており、埋土にはコンクリート・レンガや石炭屑など、旧福井駅舎に関わる廃棄物が多量に混ざっていました。また、焼土や炭化物を多量に含む盛土も所々で確認しましたが、これは戦災（福井空襲）もしくは震災（福井地震）後の整地によるものと推測します。

調査区A

主な遺構は木製品などを多量に廃棄したゴミ穴1基です。本区の出土遺物はこのゴミ穴の出土品がほぼ全てで、土器は越前焼（甕・播鉢）、陶磁器類、瓦、土師質皿など、木製品は漆器碗・碗蓋が各1点、下駄が数点、ほかに板材や角材、杭などがあります。

調査区B

主な遺構はゴミ穴3基と土坑6基ですが、特筆すべき遺構として、土坑1があります。土坑1の平面形はいびつな長方形を呈していて、規模は長さ3.5m、幅0.75m、深さ0.3mを測り、遺構内からは越前焼の鉢が3～4個体分まとまって出土しました。遺構の形状や遺物の内容・出土状況などを総合すると、土坑1は土葬墓と推測できます。本区で出土した遺物は、土器は前述した越前焼の鉢や土師質皿など、木器・木製品は漆器碗や下駄、板材などがあります。

まとめ

今回の調査で得た成果はごく限られたものですが、ゴミ穴などの生活遺構は過去の調査で検出した屋敷地跡と同様、当地が日常生活の場であったことをうかがわせます。その一方、土葬墓である土坑1は日常生活とは全く正反対の性格を持つ遺構であり、葬送儀礼をうかがわせる遺物の出土状況などとともに注目すべき成果と言えます。

（中森敏晴）



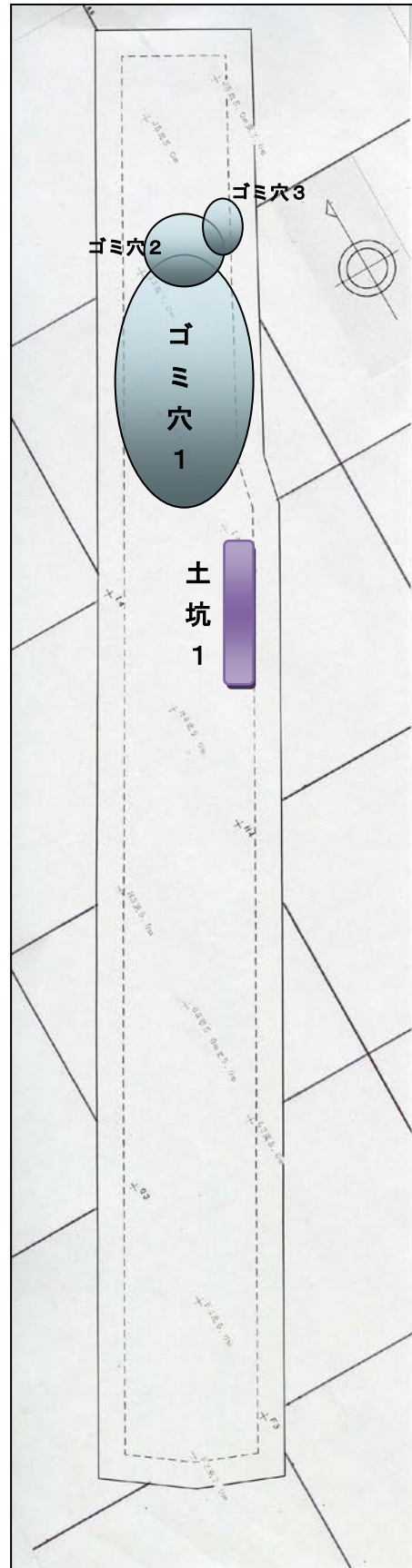
調査区A ゴミ穴1 (北西から)



調査区B 土坑1・遺物出土状況 (北東から)



調査区B ゴミ穴1・2・3 (北西から)



調査区B 遺構模式図